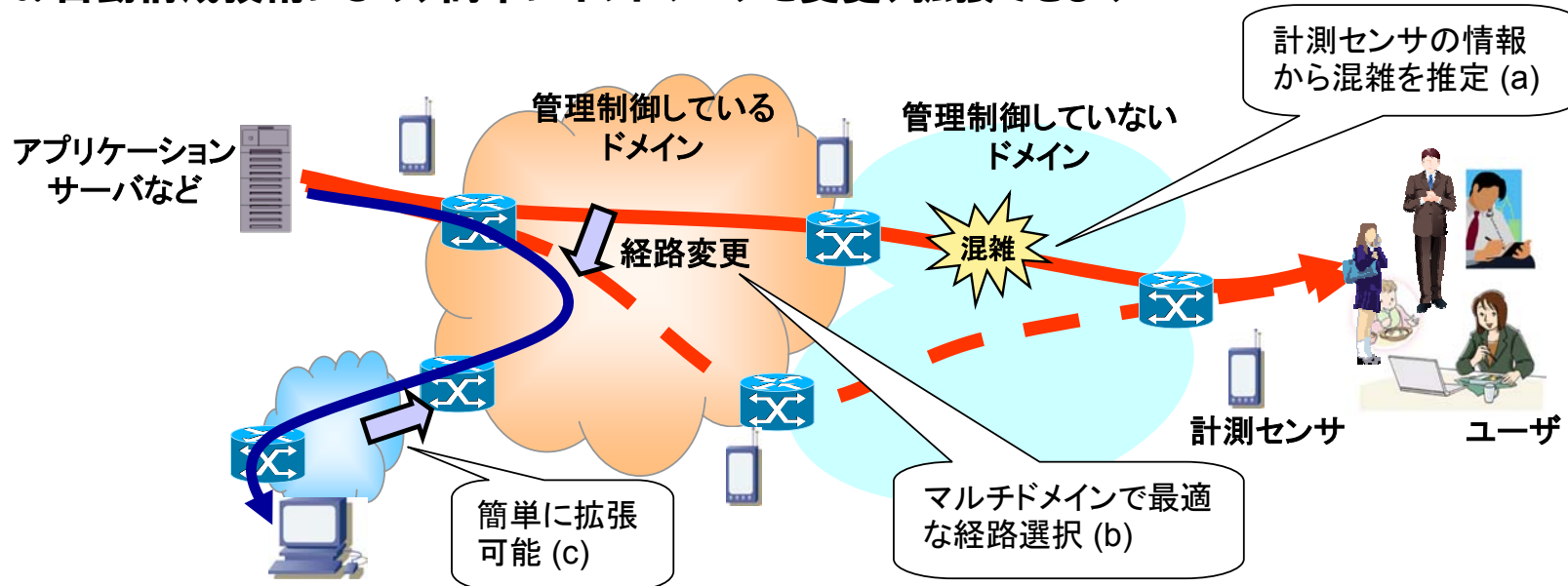


T5連携「ネットワーク計測・制御プラットフォーム」

ネットワークの利用が増大し多様化するユビキタス時代を支えるために、簡単に拡張でき、かつ高品質な通信サービスの実現を可能とするネットワーク計測・制御プラットフォームを開発しています。

- a. 計測技術により、管理制御していないドメインの状態を推定します
- b. 経路制御技術により、ネットワークの状態に応じた経路選択を動的に行い複数のドメインにわたって高品質な通信を実現します
- c. 自動構成技術により、簡単にネットワークを変更、拡張できます



ネットワーク経路制御技術

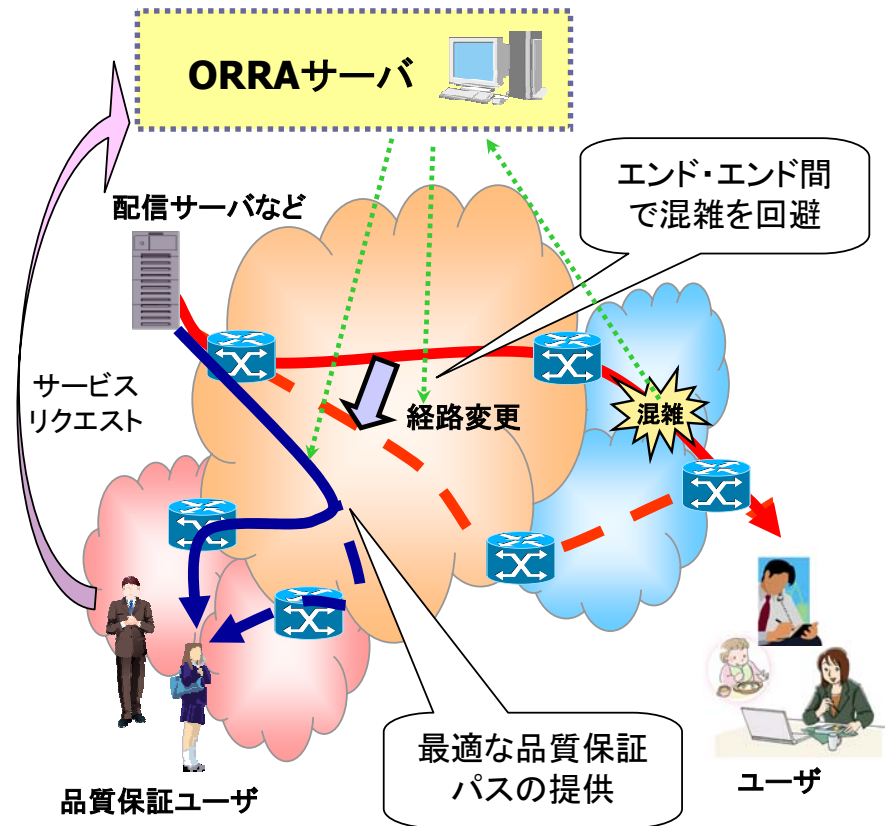
いつでもどこでもエンド・エンド間で高品質な通信サービスを提供可能とします。

さまざまな端末がネットワークを利用するユビキタス社会ではトラフィックパターンの予測が難しくなることが予想されますが、ダイナミックに経路を制御することで大勢のユーザの品質要求を満たします。

■ORRAサーバが以下の制御を行います

- 品質 (QoS) 保証トラフィックには、アクセス網とコア網の両方の状況を考慮して最適な経路を決定
- 品質保証なし(ベストエフォート)のトラフィックには動的負荷分散制御で輻輳を回避

※ QoS: Quality of Service
ORRA: Optimum Route/Resource Allocation

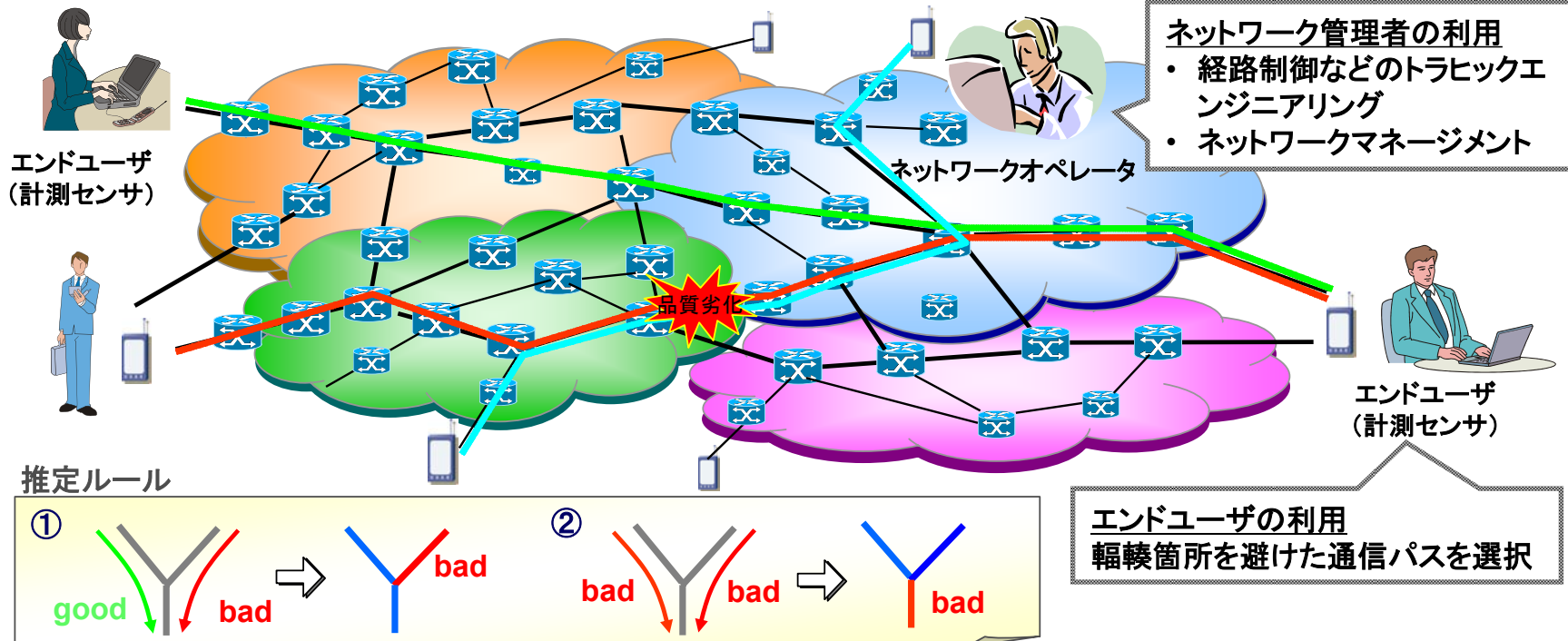


—→ 品質保証トラフィック
—→ 品質保証なしのトラフィック

ネットワーク計測センサ技術

多様性・可変性の著しいユビキタスネットワークの管理を実現するための品質計測技術です。

- インターネットでは品質劣化の箇所を把握することは困難です。
- ネットワーク計測センサ技術では、多数の計測センサ同士が品質を計測し、ネットワーク内部の品質劣化箇所を推定します。
- ネットワーク管理者やエンドユーザが利用することを想定した技術です。



大規模計測プラットフォーム構築技術

P2P技術を利用し、計測センサの協調により大規模な計測システム向けのプラットフォームを構築する技術です

■P2P技術を利用する事により、10,000から1,000,000ノード程度の計測センサがそれぞれ計測した結果を共有し、ネットワーク内部状態を推定する事を実現します。

■本システムは以下の2つの技術を用いています。

▼各計測センサが自律分散して効果的な計測パスを決定する技術。

▼計測センサ自身が連携して分散データベースを構築する事により、膨大な計測結果の蓄積・検索に対応できる技術。

